**申請書類記入上の注意**

□ **全般的事項**

1.　記入にあたっては、指定様式にワープロ等の活字で記入する。

2.　様式は、学内HPからダウンロード可。（SMSNET＞管理組織＞総務部人事課＞教員の方＞教員人事関連書式）

3.　注意事項を良く読み、指示に沿って記入すること。

**提出先、添付書類**

1.書類は医学部長迄提出して下さい

※臨床系は病院長を経て学部長の確認後、総務部人事課へ提出すること

※外部公募時は、教員人事係へ提出すること。

2.添付書類

1）医師免許証の写

2）学位記の写

3）保険医登録票の写

4）臨床研修修了登録証の写(平成16年度以降)

5）写真（証明書サイズ）1枚

6）医学業績評価シート

□ **教員人事書類 確認シート（1ページ目）**

学内の申請者（運営責任者）が記入する。

　　□ **理由書**

　　　　自由書式。申請する理由を運営責任者（または病院長、

医学部長）が記載する。

□ **推薦状**

自由書式。推薦者は必ず押印又は直筆で署名する。

□ **履歴書（様式1）**

1.「年」は西暦とし、和暦を（　）で記入する。

2.「年齢欄」は作成日現在の年齢を記入する。

3.「学歴欄」は高等学校卒業以降、大学入学卒業、大学院入学修了等の学歴とする。

4.「職歴」は大学卒業以後を順次記入し、所属・職名・職位等についても記入。尚、各職歴については始期及び終期を明確にし、現職については「現在に至る」と記入する。（海外留学、国内留学を含む）

5.「学位」は学位名、授与大学、学位記番号、取得年月日を記入する。

6.「免許・資格」は免許名、登録番号、取得年月日、資格は各種認定資格名、取得年月日を記入する。

7. 学会及び社会における活動等、実績と現在の状況を記入する。

 1）加入学会名

 2）学会、研究会等の役職名（理事・評議員・監事等）。学術雑誌の編集委員等。

 3）官公庁から委託された委員会名及び役職名等。

8. 学内在籍者の場合は現在の職位を記載する。（例：教育員、研究主任、外来医長）

* **就任後の抱負（医学教育、研究活動、診療など）（様式2）**

採用・昇格後の抱負を漠然と記すのではなく、申請者がこれ迄、どのように教育・研究・診療にかかわり、どのような成果を上げ、今後それをどのように繋げて行くか、全体の流れが明確となるように記す。例えば、プレゼンテ－ション等で発表するように申請者自身の言葉で、エビデンス等を併用し、教育・研究・診療のどの業績の根拠がそれに該当するか等を細かくアピールして行く。

* **教育活動実績（様式3）、研究活動実績（様式4）、診療活動実績（様式5）、運営管理活動実績（様式6）**

学内からの昇格者は、委員会名を記載し、いつから担当しているか具体的に記載する。

学外からの応募者は、準じる箇所へ記載する。

* **その他の実績（様式7）**

行政への貢献、賞、罰、兼業状況等、該当のある場合は記載する。

* **大学院教員資格確認シート（様式8）**

**【資格要件】**

「埼玉医科大学大学院博士課程及び各修士課程の大学院教員の資格要件等に関する取扱要領」を参照し　①-③の該当箇所に印をつける。主たる研究テーマとキーワードを記載する。

　　　 ※「学位論文の指導経験がある」場合は記載する。

　　　＝抜粋＝

○埼玉医科大学大学院博士課程及び修士課程の大学院教員の資格要件等に関する取扱要領

 (大学院教員の資格要件)

第２条　医学研究科博士課程(以下「博士課程」という。)を担当する教員は、次の各号の一の要件を満たすものとする。

(1)　学位(博士)を有し、原著論文と特許出願(発明者であり、かつ、所属機関が職務発明として認定し特許を受ける権利を承継したものに限る。)の合計数が4編(件)以上あること。

(2)　医学研究科委員会において、専門分野について特に優れた知識及び経験を有すると認められること。

 (指導教員の資格要件)

第３条　博士課程を担当する教員の教育研究上の指導能力が、規則第4条第3項第2号に該当すると認められる者は、次の各号の一の要件を満たすものとする。

(1)　直近4年間で原著論文特許出願(発明者であり、かつ、所属機関が職務発明として認定

し特許を受ける権利を承継したものに限る。)の合計数が2編(件)以上あること。

(2)　その他医学研究科委員会において、前号と同等の業績を有すると認められること。

* **研究業績数一覧（様式9-1）**
* **研究業績目録（様式9-2～9-8）**

研究業績目録は「学位論文」「原著論文」「著書」「総説」「症例報告（事例報告）」「その他」「学会発表」に区別し、その区分毎に英文・和文を分けて、直近のものから西暦順に番号を振って記入する。本人氏名にはアンダーラインをつける。なお、投稿中や投稿予定のものは含まない。

該当しないものは、「なし」と明記する。

★学位論文（様式9-2）

博士論文、修士論文に分けて記載する。Thesisの場合、その旨を明記する。

★原著論文（様式9-3）

ピアレビューを受けた研究結果を報告する論文。速報・短報を含む。意見を述べた手紙形式の記事等は、「その他」（様式9-7）に記す。症例報告は様式9-6に記載する。主要論文10編の番号に○を付し、別刷を添付する。Corresponding authorである場合、番号に◎を付す。

★著書（様式9-4）

単著・共著及び分担執筆で共著の場合は全著者名、分担執筆の場合は編集者（代表者1名）を記入。翻訳は「その他」（様式9-7）に記載する。

★総説（様式9-5）

総説論文は、その分野の事項に関する概要、あるいは研究の動向・展望等がまとめられているもの。ピアレビューを受けたものは、番号に○を付す。

★症例報告（事例報告）（様式9-6）

症例報告（事例報告）は、査読制度のある学会機関雑誌等において臨床例を報告したもの。

★その他について（様式9-7）

ピアレビューを受けない学術論文や依頼原稿、手紙形式の記事・意見等、上記以外のものを記入する。

★学会発表（特別講演、シンポジウム、一般発表）（様式9-8）

学会における発表で、特別講演、シンポジウム、一般発表等を項目ごとに、国際学会と国内学会に分け、それぞれ開催年月日順（直近のものから古いものの順）に記載する。なお、一般発表は代表的なものを20編程度記載する。

**□ 医学教育業績評価シート**

　別に定めるExcelシートに自己評価で評価点を選択入力し、評価シートとレーダーチャートの全ペー

ジを印刷して添付する。

様式1

各項目の記入法については、「申請書類記入上の注意」を参照のこと。

履歴書

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | ふりがな　　　さいたま　　たろう | 性別 | 生年月日（年齢は作成日） | 顔写真4×3 |
| 氏名　　　 埼 玉　太 郎 | 男･女 | 1969（昭和44）年12月28日（53歳） |
| 現住所 | 〒350-0495埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38電話番号：049-123-4567 | 出身地 | ・道・府・県東京 |
| E-mail | ○○○○＠saitama-med.ac.jp | 学内在籍者の場合（教育、研究、診療）職位：教育員、研究主任、外来医長 |
| 現職 | 埼玉医科大学医学部 ○○学 准教授 |
| 学歴（高等学校卒業以降より記入のこと） | 1988（昭和63）年3月1989（平成 元）年4月1995（平成 7）年3月1995（平成 7）年4月1999（平成11）年3月 | ○○高等学校卒業* ○大学医学部入学
* ○大学医学部卒業
* ○大学医学部大学院医学系研究科○○系専攻入学

同上 修了 |
| 職歴（職名，地位等も記入のこと） | 1995（平成 7）年5月 1日1997（平成 9）年4月30日1997（平成 9）年5月 1日1998（平成10）年3月30日2002（平成14）年4月 1日2004（平成16） 年3月31日2004（平成16） 年4月 1日2006（平成18） 年6月30日2006（平成18） 年7月1日2009（平成21） 年3月31日2009（平成21） 年4月 1日2015（平成27）年4月 1日 | * ○大学医学部附属病院 第一○○科 研修医

同上 研修医修了* ○大学医学部附属病院 第一○○科 助手

同上 大学院入学のため退職* ○大学医学部附属病院 第一○○科 助手

同上 退職米国 ○○大学研究員 （○○学）帰国* ○記念総合病院 ○○科部長

同上 退職* ○大学医学部 ○○学 講師

埼玉医科大学医学部 ○○学 准教授現在に至る |
| 学位 | 博士（医学）　　（○○大学医学部　甲○○○号）　　1999（平成11）年5月15日取得 |
| 免許・資格 | 第○○回医師国家試験合格　医籍登録番号 第○○○○○号 取得年月日 令和○○年○月○日日本○○○○学会 指導医　取得年月日 平成○○年○月○日～令和○○年○月○日日本○○○○学会 認定医　取得年月日 平成○○年○月○日～令和○○年○月○日 |
| 学会及び社会における現在の活動等 | 日本○○○○学会 正会員日本○○○○学会 正会員日本○○○○学会 評議員日本○○○○学会 理事厚生労働省○○○委員会 委員 |

上記の通り相違ありません。

（令和　　　）年　　　月　　　日

　　　　　　　　署名　　　　　　　　　　　　　　　　　印

理由書

自由書式

申請する理由を運営責任者（または病院長、医学部長）が記載する。

※公募の場合は理由書不要

（令和　　　）年　　　月　　　日

基本学科名等

資格・職位等

申請者氏名　　　 　　　　　 　　　　　㊞

推薦状

自由書式

推薦者は必ず押印又は直筆で署名する。

教授審査の場合は2名からの推薦状を添付すること。

（①上司、➁施設・機関の長、関連学会の役職者からのもの）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（令和　　　）年　　　月　　　日

所属機関名等

所属機関職位等

推薦者氏名　　　 　　　　　 　　　　　㊞

様式2

（氏名　埼　玉　太　郎　）

|  |
| --- |
| 就任後の抱負（医学教育、研究活動、診療など）採用・昇格後の抱負を漠然と記すのではなく、申請者がこれ迄、どのように教育・研究・診療にかかわり、どのような成果を上げ、今後それをどのように繋げて行くか、全体の流れが明確となるように記す。例えば、プレゼンテ－ション等で発表するように申請者自身の言葉で、エビデンス等を併用し、教育・研究・診療のどの業績の根拠がそれに該当するか等を細かくアピールして行く。 |

様式3

様式3、4、5、6：

学内からの昇格者は、委員会名を記載し、いつから担当しているか具体的に記載する。

学外からの応募者は、準じる箇所へ記載する。

（氏名　埼　玉　太　郎　）

**教育活動実績**

|  |
| --- |
| **１．教育ポイント（過去3年間、学内者のみ）**2020年度××ポイント、2021年度××ポイント、2022年度××ポイント**２．コース／ユニットディレクターの経験（学内者のみ）**2016年度　4年生　ヒトの病気２コース　免疫 ユニットディレクター**３．講義および実習の担当****３－１．講義**　2016年度　３年生講義　３コマ（１コマ65分）2016年度　○×大学医学部　４年生講義　１コマ（１コマ　90分）2018年度　毛呂病院看護専門学校　第一学科講義　４コマ（１コマ　90分）**３－２．実習（基礎医学実習・臨床実習）**2017年度　5年生臨床実習　週１回　半日**３－３．小グループ学習** 2016年度　2年生臨床推論　１課題担当2018年度　4年生医学英語　4コマ担当**４．試験の担当****４－１．試験問題作成（学内試験など）** 2018年度　卒業試験　３題、3年生定期試験　20題**４－２．試験監督（学内試験、入学試験など）**2017年度　卒業試験　試験監督**４－３．OSCE評価者（学内、学外）**2016年度　共用試験OSCE　評価者**５．学生支援**　**５－１．　補習**　2018年度　6年生ナイトセッション　2コマ担当　**５－２．　面談**　2017年度　6年生個人面談　10名　**５－３．アドバイザー（学内者のみ）**　2016年度　4年生アドバイザー**６．課外活動の指導****６－１．課外学習プログラム（学内者のみ）**2017年度夏季課外学習プログラム　１年生１人　４年生２人**６－２．クラブ活動等**　テニス部顧問**７．卒後教育における指導**　**７－１．大学院学生**　2015年度　博士課程大学院生1名　**７－２．初期研修医**　2015年度～　埼玉医科大学病院にて毎月くる研修医及び他施設からくる研修生の指導　**７－３．専攻医**　2018年度　専攻医2名**８．その他**（ない場合は「なし」と記載する） |

様式4

（氏名　埼　玉　太　郎　）

**研究活動実績**

|  |
| --- |
| **１.研究ポイント（過去3年間、学内者のみ）**2020年度 ×ポイント、2021年度 ×ポイント、2022年度 カテゴリーA×ポイント、カテゴリーB×ポイント**２．公的研究費の獲得状況(代表、分担)**2016年度　厚生労働省○○○○○疾患研究委託費 　　　　　　　　（分担） ※ 100万円○○○○○○○○○○○○の研究2017年度～2019年度　文部科学省科学研究費一般研究C （代表） 350万円○○○○○○○○○○○○○の研究2019年度～2021年度　文部科学省科学研究費一般研究B （代表） 1,480万円○○○○○○○○○○○○○の研究※分担の場合は、本人に分配された金額と研究代表者名を記入すること。**３．その他の研究費の獲得状況(代表、分担)**2016年度　日本○○財団 研究助成金 　　　　　　　　　 （代表） 100万円○○○○○○○○○○について2017年度　○○学内○○グラント 　　　　　　　　　　　（代表） 50万円○○○○○○○○○○○の研究**４．特許・実用新案の取得状況**発明の名称・出願人・特願番号（特許番号）・出願日（成立日）を明記すること。**５．科学研究費の応募歴**2011年度～2015年度　文部科学省科学研究費一般研究C**６．その他**（ない場合は「なし」と記載する） |

様式5

（氏名　埼　玉　太　郎　）

**診療活動実績**

|  |
| --- |
| **１．外来診療**週２日　午前及び午後　１日平均50人**２．病棟診療**週3日　8時から病棟回診週平均10ベット担当週１回、週末１回当直**３．手術****１）最近3年あるいは5年の手術実績を「記入上の注意」の例に従って記載**例１：　（手術術式別に、術者、指導的助手、助手の区別をつけて例数を記載） ○○術 術者ＸＸ件、指導的助手ＸＸ件、助手ＸＸ件 △△術 術者ＸＸ件、指導的助手ＸＸ件、助手ＸＸ件　　例２：　（時系列に手術と役割を１件ずつ記載） 2017.01.15 ○○術 術者 2017.01.17 △△術 指導的助手　　例３：　（自由な体裁で記載）**２）手術実績に対する自己評価**　　（例）　上記に記載したごとく、○○外科領域の全ての手術に精通しているが、最近の5年（3年）間は、専門とする△△病の手術に携わることが多い。特に○○病に対する△△アプローチによる根治手術方は、従来の手術法に比して低侵襲で術後回復が早く学会でも高い評価を受けている。**４．外来および病棟の診療管理**2016年度～2018年度　埼玉医科大学病院　○×科外来医長として外来管理2017年度～2022年度　○×病院にて部長として勤務（担当科病床数50床）3人の指導を行いながら、年間200例の手術を行った。**５．専門とする領域の診療内容**特発性○○疾患の患者を週平均10人外来診療、月平均2人手術、総計約50人の診療にあたっている。**６．その他**2017年度～現在　セカンドオピニオン5件を担当した。2019年度～現在　○×友の会（患者・家族の会）代表世話人として活動 |

主たる診療疾患対象とその内容を上記に従い記述する。

様式6

（氏名　埼　玉　太　郎　）

**運営管理（校務を含む）活動実績**

|  |
| --- |
| **１．学内・病院内の教育関連委員会等の活動**2016～現在　学務委員2019年度～2020年度　臨床実習ワーキンググループ委員**２．入試業務（入試委員会、入試実施委員会等）**2020年入試委員会　委員**３．医学教育ワークショップ／指導医講習会への参加・指導**2017年第○回医学教育ワークショップ参加、タスクフォース2019年○月○日ACLS講座　講師**４．学内・病院内の研究関連委員会等の活動**2020年度～2022年度　中央研究施設運営委員会、特許委員会、グラント選考委員会、動物実験委員会委員**５．学内・病院内の診療関連委員会等の活動（臨床系のみ）**2012年度～2015年度 診療部長会議、手術部運営委員会、医療安全対策委員会委員2016年度～2019年度 リスクマネージャーとして医療安全を行った。**６．学内・病院内の評価関連活動**2019年度～2021年度　自己点検・評価委員会、IRセンター運営委員会、機関別認証評価ワーキンググループ、分野別評価ワーキンググループ委員**７．その他**（ない場合は「なし」と記載する） |

様式7

行政への貢献、賞、罰、兼業状況等、該当のある場合は記載する。

（氏名　埼　玉　太　郎　）

**その他の活動実績**

|  |
| --- |
| **１．学会活動（学会等の開催、役員歴、編集委員等）**2016年12月　第○回○×学会　開催（○×ホテルにて）2017年度～現在　○×学会　理事2019年度～2022年度　○×学術会誌　編集委員**２．論文の査読**2022年度　○○誌　2件**３．地域・行政への貢献**2010年度～2017年度　診療報酬支払基金審査委員2018年度　厚生労働省　医薬品医薬安全機構　調査委員**４．受賞歴**2020年度　日本○○学会 ○○奨励賞**５．罰**1997年より1998年 1年間 文部科学省科学研究費交付停止**６．兼業状況（具体的に明記）**○×病院　週１回（外来半日、手術半日）○×医院　月１回（外来半日）**７．その他**（ない場合は「なし」と記載する） |

様式8

**【資格要件】**

「埼玉医科大学大学院博士課程及び各修士課程の大学院教員の資格要件等に関する取扱要領」を参照し

　①-③の該当箇所に印をつける。主たる研究テーマとキーワードを記載する。

　※「学位論文の指導経験がある」場合は記載する。

（氏名　埼　玉　太　郎　）

大学院教員資格確認シート

【資格要件】

　該当箇所をチェックする。②および③の発表論文は様式9、特許出願は様式4にて確認のこと。

☑　①学位（博士）

☑　②原著論文と職務発明として認定され発明者となった特許出願の合計数が4編(件)以上

☑　③直近4年間で原著論文と職務発明として認定され発明者となった特許出願の合計数が2編(件)以上

※ 上記のチェック項目に基づき、下記の「大学院教員」、「大学院指導教員」、「該当せず」のいずれかに

チェックする。また、本確認シート１頁目の大学院資格欄にもチェックを入れること。

□ 大学院教員･･･････①および②に該当する場合

☑ 大学院指導教員･･･①、②、③全てに該当する場合

□ 該当せず･････････上記のいずれでもない場合

【主たる研究テーマ・キーワードを以下に記入すること】

研究テーマ：〇〇〇〇、〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| １関節リウマチ | ２膠原病 | ３自己免疫 | ４ TNFα | ５生物学的製剤 |

キーワード：

＝参考＝

※「学位論文の指導経験」がある場合は詳細を記入すること。

学位論文名・指導対象者氏名（他大学の場合は学校名も併記）・指導時期

1．○○疾患の○○における○○とその対策・埼玉太郎（○○大学大学院）・2012年4月-2014年3月

2．………

様式9-1

**研究業績数一覧**

（氏名　埼　玉　太　郎　）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **区　　分** | **総　　数** | **最近4年間の数** | **備　　考** |
| **原著** | 筆 頭 | （　　　） | （　　　） | （　　）内は**英文**の件数 |
| 共 著 | （　　　） | （　　　） |
| 計 | （　　　） | （　　　） |
| うち責任著者 | （　　　） | （　　　） |
| **著書** | 単 著 | （　　　） | （　　　） | （　　）内は**英文**の件数 |
| 分担 | 単 書 | （　　　） | （　　　） |
| 共 著 | （　　　） | （　　　） |
| 計 | （　　　） | （　　　） |
| **総説** | 筆 頭 | （　　　） | （　　　） | （　　）内は**英文**の件数 |
| その他 | （　　　） | （　　　） |
| 計 | （　　　） | （　　　） |
| **症例報告** | 筆 頭 | （　　　） | （　　　） | （　　）内は**英文**の件数 |
| その他 | （　　　） | （　　　） |
| 計 | （　　　） | （　　　） |
| **その他** | 筆 頭 | （　　　） | （　　　） | （　　）内は**英文**の件数 |
| その他 | （　　　） | （　　　） |
| 計 | （　　　） | （　　　） |
| **学会発表** | 演 者 | （　　　） | （　　　） | （　　）内は**英文**の件数 |
| その他 | （　　　） | （　　　） |
| 計 | （　　　） | （　　　） |

＊「原著」は、ピアレビューを受けた研究結果を報告する論文（速報・短報を含む）とし、意見を述べただけの手紙形式の記事や、症例報告（事例報告）は含まない。

＊ピアレビューを受けていない論文（速報・短報を含む）は、「その他」に記すこと。

＊ピアレビューを受けた総説は、様式9-5で番号に○を付すこと。

様式9-2

**1）学位論文**（博士および修士）

* 著者名及び共著者名、論文題名、発表誌名　巻（号）：始頁～終頁、出版年（西暦）、の順で記載する。
* Thesisの場合、その旨を明記する。

**修士論文**（○○大学）

埼玉太郎：骨格筋組織における・・・・・・の研究. 2018

**博士論文**（○○大学）

Saitama T, Tokyo H, Ibaraki S: Establishment of ･････････ in vivo. Nature 3455 (123):678-680, 2022

　または

埼玉太郎：腎機能の・・・・・・・・・・・の樹立. 2022（Thesis）

様式9-3

研究業績目録は、その区分毎に英文・和文を別にし、直近のものから西暦順に番号を振って記入する。本人氏名にはアンダーラインをつける。なお、投稿中や投稿予定のものは含まない。

該当しないものは、「なし」と明記する。

**2）原著論文**（ピアレビューを受けた研究結果を報告する論文。速報・短報を含む。意見を述べた手紙形式の記事等は、「その他」（様式9-7）に記す。症例報告（事例報告）は様式9-6に記す。

* 各論文については、番号、著者名及び共著者名、論文題名、発表誌名　巻（号）：始頁～終頁、出版年（西暦）、の順で記載する。
* 英文と和文を分けて記載する。
* 論文の順序は、直近のものから古いものの順に番号を付し配置する。
* 研究業績を表す主要なもの10編の別刷を添付し、番号に○を付す。
* Corresponding authorである場合、番号に◎を付す。

**● 英文**

1. Tokyo H，Saitama T，Chiba J： Abnormal human･････to･････with lung Cancer. Cancer 69 (67):12-20,2022

◎2. Saitama T: Establishment of ･････････ in vivo. Nature 3455 (345):678-680, 2021

**● 和文**

◎１．埼玉太郎：○○○における○○○形態○○的研究．日本○○学会雑誌16 (2):51-63, 2022

○２．埼玉太郎，東京花子，千葉二郎：○○○についての○○○的研究　○○学12 (1):44-55, 2021

様式9-4

**3）著書**（翻訳は「その他」（様式9−7）に記載すること）

* 各論文については、番号、著者名及び共著者名、論文題名、発表誌名　巻（号）：始頁～終頁、出版年（西暦）、の順で記載する。
* 英文と和文を分けて記載する。
* 論文の順序は、直近のものから古いものの順に番号を付し配置する。

1. 埼玉太郎、東京花子：○○○病の指針.　第○章.　茨木四郎編, ○○○書院, 12-24, 2022

2. 埼玉太郎：○○○のための最新○○講座　○○○病の○○○療法, 群馬三郎編, ○○○出版, 208-215, 2021

様式9-5

**4）総説**

* 各論文については、番号、著者名及び共著者名、論文題名、発表誌名　巻（号）：始頁～終頁、出版年（西暦）、の順で記載する。
* 英文と和文を分けて記載する。
* 論文の順序は、直近のものから古いものの順に番号を付し配置する。
* ピアレビューを受けた総説は、番号に○を付す。

**● 英文**

○1. Saitama T，Chiba J： Abnormal human ････to･････with lung Cancer. Nature Reviews Cancer 690 (987):125-127,2022

○2. Saitama T: Recent topics in ･････････ lung cancer. Lancet 3455 (13):678-680, 2021

**● 和文**

1. 埼玉太郎：肺がん症例ににおける○○○治療の進歩. 日本○○学会雑誌126 (45):351-363, 2022

様式9-6

**5）症例報告（事例報告）**

* 各論文については、番号、著者名及び共著者名、論文題名、発表誌名　巻（号）：始頁～終頁、出版年（西暦）、の順で記載する。
* 英文と和文を分けて記載する。
* 論文の順序は、直近のものから古いものの順に番号を付し配置する。

*＊記載要領は原著論文と同じ*

様式9-7

**6）その他**（ピアレビューを受けない学術論文や依頼原稿、手紙形式の記事・意見等は、ここに記す。）

* 各論文については、番号、著者名及び共著者名、論文題名、発表誌名　巻（号）：始頁～終頁、出版年（西暦）、の順で記載する。
* 英文と和文を分けて記載する。
* 論文の順序は、直近のものから古いものの順に番号を付し配置する。

*＊記載要領は原著論文と同じ*

様式9-8

**7）学会発表**

* 国際学会と国内の学会を分けて記載する。
* 特別講演、シンポジウム、一般発表等を項目ごとに分け、発表者名及び共同発表者名、演題名、学会名 (正式名称で記載すること)、年月日、開催地を記載する。
* 記載の順序は、それぞれ直近のものから古いものの順に番号を付し配置する。
* 一般発表は代表的なものを20編程度とし、別に総数を明記する。

**特別講演**

**● 国際**

1. Saitama T, Chiba J, Ibaraki S: Normal signaling････. 25th International Conference････, 9.6.2022, Boston

● **国内**

1. 埼玉太郎：○○性○○病に対する○○○を用いた○術. 第29回日本○○学会, 2022.10.12, 神戸市

**シンポジウム**

**● 国際**

1. Saitama T, Chiba J: Normal signaling････. 55th International Conference････, 9.6.2022, San Francisco

● **国内**

1. 埼玉太郎：○○における○○の○○との役割．第35回日本○○学会学術総会, 2022.9.7, 札幌市

2. 神奈川花子, 埼玉太郎：○○における○○の○○との役割．第7回○○研究委員会, 2021.3.9, さいたま市

**一般演題**

**● 国際**

1. Saitama T, Chiba J: Pathological ････.:45th International ････, 10.7.2022, Houston

● **国内**

1. 埼玉太郎, 山梨三郎, 千葉二郎：○○疾患の○○における○○とその対策．第42回日本○○学会総会, 2020.12.14, 練馬区

2. 山梨三郎, 埼玉太郎, 千葉二郎, 茨城四郎：○○病に○○の１症例．第35回○○研究会関東支部会, 2013.5.1, 港区